



Title	〈書評〉日野永一著 技術シリーズ「デザイン」 出版 朝倉書店 1981年11月1日 初版
Author(s)	濱野, 節朗
Citation	デザイン理論. 1983, 22, p. 120-121
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52622
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日野永一著

技術シリーズ「デザイン」

出版 朝倉書店

1981年11月 1 日 初版

朝倉書店の「技術シリーズ」に、本学会会員の著で新たなデザイン技法の一冊が加えられた。本書は従来の安直な技法書と異なり、とかく拡散しがちなデザインの分野を的確に把握し、各分野ごとにより専門的な領域にまで掘り下げたものである。巻頭のカラー図版の他に、グラフやイラストレーションがふんだんに盛り込まれた頁組みは、技法のヴィジュアルな伝達を意図したものであろうが、これ等は著者の現場に即したデザイン教育の豊富な体験から出たように思われる。

本書の特徴は、デザインの分野を鳥瞰し各々の専門分野の特色を重視しながらも、むしろその相互関係に力点を置いた所にある。著者がまえがきで述べているように、対象となっている初心者にとってはまことに理解し易い内容になっている。

本書は8章から成りたち、前半の4章はベーシックな内容のもので構成されている。章のタイトルを揚げると、(章外)デザインとは、(Ⅰ)形と色の基礎知識、(Ⅱ)デザインの用具と表現技法、(Ⅲ)造形発想の基礎、(Ⅳ)製図の基礎、といったもので、デザインのどの分野にとっても必要不可欠な基本的な知識が網羅されている。特に色彩に関する部分と造形発想に関する部分は極めて密度が高いように思われる。

後半はデザインの専門的な各々の分野に関して述べられている。章のタイトルは、(Ⅴ)視覚伝達デザインの基礎、(Ⅵ)プロダクトデザインの基礎、(Ⅶ)クラフトデザインの基礎、(Ⅷ)インテリアデザインの基礎、となっている。専門分野の分け方については様々な考え方があり、本書のような分け方が必ずしも最良とは言いがたいが、デザインの分野を技法という観点で見た本書のような場合は、妥当なものといってさしつかえあるまい。後半に扱われている内容も、各分野のよりベーシックな領域に力点が置かれ、対象が初心者である事に充分の配慮がなされている。

対象は初心者になってはいるが、デザイン教育にたずさわる者にとっても興味ある構成

となっていて、実技指導のサイドブックとしての機能もそなえているように思われる。

各章の終頁には必ず参考図書が揚げられ、読者がより専門的な知識を必要とする場合には対処できるように配慮されている。入門書としては当然のことではあるが、数多いデザイン関係の出版物の中から適切なものをセレクトして紹介された著者の努力には敬意を表したい。

デザインの分野は言うまでもなく、技術の進歩や社会状況の変遷と密接な関係にあり、日々刻々と変化する流動的な性格を持っている。それ故、技法、用具等も新しいものが続々と出現して、短い期間でめまぐるしく変化している。そういった流動的な領域を対象とした技術書は、出版された時点から日を追って旧式なものになっていく宿命を負っている。本書も出版から2年たった現在の時点から見れば、数は少ないにせよ、表記法や図版の今日性等にそういった箇所が見うけられる。本書のような優れた技法書にはやはり頻繁な改訂版の出版が切に望まれるのである。

(濱 野 節 朗)